

檜葉町に来て早や2年

檜葉町に来て早や2年が経ちました。2011年3月11日の東日本大震災と福島第一原発事故によって、檜葉町は全町避難になりました。そして、2015年9月に、全町避難した自治体としては初めて、避難指示が解除されました。正に檜葉町は、双葉郡では“復旧・復興のフロントランナー”を自負しています。

全町帰還が出来るようになって2年半経った檜葉町でも、人口約7,000人の内、町内の居住率は約33%です（18年2月末現在）。この中には東電関係の人や私のような新住民も含まれるので、実際に帰還した町民は、約25%です。この6月には待望の商業施設がオープンしますが、現在の商店は、仮設商店街と2軒のコンビニだけです。

被災地の現状は、これからの全国のどこの地方でも起きる普遍的な問題

①人口減少・高齢化・過疎化と地方の衰退

東日本大震災と福島第一原発事故によって、三陸沿岸（岩手・宮城県）や浜通り（福島県）は大きな被害を受けました。そして、人口が減少しました。しかし、これらの地方では、今までも人口減少・高齢化・過疎化が進んでいました。つまり、これらの被災地では、人口減少等が10年20年前倒しになっただけだとの意見があります。人口減少や地域の衰退—それは一部の大都市を除いて、将来全ての地方で起きる問題なのです。

②災害は忘れたころにやって来る（寺田 寅彦）

最近、日本の各地で大雨・台風・水害・土砂災害・地震・津波・火山の噴火等の自然災害が起こっています。正に日本は、「天地動乱」の時代なのです。災害にあった人の多くが、「まさか自分が仮設住宅に入るとは、夢にも思わなかった」と言います。また、自然災害の他に、原発事故等の人的災害の危険もあります。

東日本大震災の宮城県沖地震は、20年以内で90%程度以上の確率で起こると予想されていました。今、南海トラフ地震は、30年以内で80%程度以上の確率で起こると予想されています。災害は、被災地だけでなく、全国どこの地方でも起こる問題なのです。万が一、南海トラフ地震で大きな被害が起きれば、人命だけでなく、財政的にも日本は破綻します。これらの問題を抱えている日本が、東京五輪や大坂万博に浮かれています。よいのだろうか？

私の任期は残りあと1年 是非福島に被災地に来て下さい！

私の任期は残りあと1年です。「上田さんは東北を回って、遊んでいるんじゃないの」「復興が遅れているのは、上田さんが足を引張ってるんじゃないの」と言う声も漏れ聞こえます。3月に福島に来たいと言っていた友人がいましたが、私の都合によって日程が合わずに断ってしまい、申し訳ないことをしてしまいました。私は、多くの人達に福島に来てもらうことを、今年度の最大の目標にします。読者のみなさん、是非福島に来て下さい。お待ちしております。

【紅白2本のしだれ桜（檜葉町下繁岡地区）】



【桜と菜の花畑（檜葉町上繁岡地区）】

